

講義名	対2)パーソナリティ論			授業形態	
担当教員	銅直 優子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

私たちは、個人の考え方や行動の仕方に一貫した傾向を見出し、「Aさんは社交的な人だ」、とか「Bさんは神経質な人だ」と表現する。このように、個人の思考や行動の特徴づける一貫した傾向をパーソナリティという。
本講義では、パーソナリティがどのように形成され、どのように我々の社会生活に影響を与えるのかについて学んでいく。また、我々のパーソナリティを客観的に理解していくために、どのような方法があるのかを学んでいく。講義の中では、実際に自己のパーソナリティを測定し、その結果についても分析していくことで、自己理解を深めていく。

到達目標

パーソナリティがどのように形成されるかを理解することができるようになる。
パーソナリティをどのように測定するかを理解することができるようになる。
パーソナリティにはどのような側面があるかを理解することができるようになる。
パーソナリティが我々の社会生活に与える影響を理解することができるようになる。
自分のパーソナリティ特徴について客観的に理解することができるようになる。

提出課題

授業中に適宜指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内の質問等については、次回以降の授業内で解説を行う。
小テストや中間テストについては、次回の授業内で解説を行う。

評価の基準

中間テスト（40%）
定期試験（60%）

履修にあたっての注意・助言他

第1回目の講義では本講義のルールを説明するため、必ず出席すること。
基本的なマナーを守って受講すること。守れない場合には、講義への出席は認めない。
<その他>
・私語をしない。
・携帯電話、スマートフォンを指示がない限りはカバンの中にしておくこと。
・その他、他の人の迷惑になるような行為はしない。
板書や展示資料のみを書き写すだけのノートではなく、口頭説明から理解できたことについてもしっかりとメモを取るノート作りを心がけること。

教科書

・使用しない。

・資料を適宜配付する。

参考図書

・性格心理学への招待（改訂版）

梅本亮夫・大山正 監修

サイエンス社

・初めて触れる性格心理学

清水弘司

サイエンス社

その他

授業計画

第1回：パーソナリティとは：性格と人格
第2回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ
第3回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ
第4回：類型論と特性論：血液型と体質
第5回：類型論と特性論：特性論の種類
第6回：類型論と特性論：性格の因子数（性格にはいくつの側面があるのか？）
第7回：パーソナリティの理論と実際：5因子性格検査
第8回：パーソナリティの理論と実際：Y-G性格検査
第9回：パーソナリティの理論と実際：作業検査
第10回：パーソナリティの理論と実際：投射検査
第11回：パーソナリティの理論と実際：性格検査まとめ
第12回：対人魅力：好まれる人と嫌われる人
第13回：対人魅力：権位説と相補説
第14回：対人魅力：対人コミュニケーション
第15回：自己意識と自尊心
第16回：健康とパーソナリティ
*第6回目と第10回目に中間テストを予定している（授業内に説明）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習時は、参考文献をしっかり目を通してから授業に臨むことが望ましい。もしくは、自分で読みやすい「性格心理学」「パーソナリティ心理学」などの書籍を目を通すこともよい。予習の際には、授業計画を参考にし、関連するテーマに絞って熟読するのが良い。予習時間：各授業回1時間
復習時は、授業内で示すキーワードを理解できているかを確認し、理解できていない場合は、参考文献を活用し、調べなおして欲しい。また、配付プリントに質問問題が用意されている場合があるが、その部分についても、更に調べ直して復習する必要がある。復習時間：各授業回1時間
授業内で性格検査を行うことが複数回あり、授業内で結果を出し、解説を行うが、各検査後には自己分析をA4用紙1枚以内のレポートとしてまとめて欲しい。また、レポートとしてまとめた後は提出をすれば、添削指導を行う。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標の達成を達成することで、「人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することに貢献することができる。また到達目標の達成を達成することで、「日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向を実施する会については、レスポンスを活用し、受講生の反応を授業時に紹介し、その反応に対して解説を行っていく予定である。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」授業内で行ういくつかのパーソナリティ検査については、病院臨床において人格査定で実践している。

備考

並行開講となった場合：対面授業もオンライン授業も授業内容、評価基準も同じとする。